

みたか国際化円卓会議第 12 期 第 5 回会議録要旨

日 時	令和4(2022)年 12 月5日(月) 午後6:30～8:00
会 場	三鷹市 教育センター 2階 第二中研修室
出席者	委員5名(欠席委員8名)、事務局4名

【当日配布資料】

- (資料1)みたか国際化円卓会議 第 12 期委員名簿
- (資料2)人権基本条例(仮称)について
- (資料3)人権基本条例(仮称)ヒアリング調査の結果報告について
- (資料4)みたか国際化円卓会議第 12 期報告(案)
- (資料5)みたか国際化円卓会議第 12 期各回会議録(第1回～第4回)

【記号について】

・	委員の発言
→	事務局の発言

【議事内容】

- 1 開会のあいさつ
- 2 人権基本条例(仮称)について
- 3 第 12 期提言について
- 4 その他

1 開会のあいさつ

2 人権基本条例(仮称)について(資料2、3をもとに説明)

→進捗状況は、これまでのヒアリングの結果を取りまとめながら、条例の「基本的な考え方」の策定に向けて、人権に関する個別課題の検証も同時に進めている段階。条例の位置づけや目指すべき方向性について、感想や意見を伺いたい。

・赤ちゃんの人権について、人権があるとみなすのは、お腹の中にいる状態からか、生まれてからか。

→三鷹市の人権基本条例(仮称)は、日本国憲法や世界人権宣言の内容をもとに作成するので、その解釈と同じになる。

・子どもでもわかりやすい条文にすることだが、「普遍性」「不可分性」「相互依存性」などは大人でもわかりにくい。誰にとってもわかりやすい表現にすることはとても重要だ。

→これらは人権を考えるうえで非常に重要なキーワードであるから、わかりやすい表現で表したい。また条例をわかりやすく説明するための「逐条解説」も作成する予定。

・条例は日本語版だけか。英語版を作る予定はあるか。

→日本語版のみの予定。三鷹市ホームページは多言語対応しており、英語翻訳が表示される。

・自動翻訳では条例の内容が正しく翻訳されるか不安。

→現在、市の公式文書の翻訳はアジア・アフリカ文化財団に委託しているが、法律用語の翻訳も対応可能か。

・(副座長)法律の翻訳は、事実関係をしっかり理解したうえでの対応となるため、難しい。

→昨今、ポケットクなどの翻訳機が発達してきている一方、依然として日本語支援は必要だという声も聞く。

住み分けや課題についての考えはどうか。

・AIが発達しているが、翻訳機を使うことによる問題もある。AIの発達によって、難しい内容を翻訳できる人や翻訳の仕事をする人が減っているという問題もある。

→医療の場面で、医師からの説明を聞くときは、AIでは頼りない。専門的なことがわからないといけない。

→三鷹市が MISHOP に委託している通訳・翻訳ボランティアサービスでも、医療と法律は対象外。

・東京都で医療や法律の翻訳・通訳に関する資格はないのか。

→東京都にはない。

・税金に関して、二国間の取扱いや相続税など、制度が一層難しくなっている。それらに精通している翻訳者が必要になると思う。

→日本語支援にも「深さ」があって、専門的な部分とAIで対応可能な日常的な部分とは異なる。支援のあり方に「深さ」を盛り込んでも良いと思う。

・(座長)人権という難しいテーマで沢山の意見が出るのは素晴らしい。これからどうするかが大切。多くの日本人は「マイノリティを実感する機会」が少ないので、それを体感できるワークショップをすると良い。例えば、アメリカでは、ハンデによりスタート位置を変えて競争するという方法で、不平等さを実感できるワークショップがある。それを体感したあとでは、子どもでも実感をもって話し合いができる。他にも、学校の先生が、事前に何も知らせず生徒を「差別するグループ」と「差別しないグループ」に分けて一日過ごす、という実験がある。差別を自分で経験するとテーマが理解できる。

・日本において、人権で障壁になっていることは何か。

→顕著なものは、男女差別、つまり男性に比べ女性の地位が低いところかと思う。

・(座長)自分の大学の学生からは、数年働いたらお母さんになりたい、と言う声も聞く。行政側が「差別があるからなんとかしよう」というだけでなく、女性の方から変わりたいと思う気持ちが大切だと思う。

・私は、男女差別よりもお金の格差が問題だと思う。働いても賃金が少ない人や、あまり働いていないのにお金がある人もいる。

→個人的な印象だが、日本ではあまり貧富の差による差別は認識されていないと思う。生活が苦しければ生活保護という最低保証がある。

・(座長)大学でのアンケートで驚いたが、1日の食費を150円以内に切り詰めている学生がいて、大学側が食事を用意したり、食材を寄付したりして対処したことがある。自分が接する学生の中にそのように困っている学生がいるとは思ってもいなかった。

→人権基本条例(仮称)の検討にあたり、子どもの分野では、コロナ禍により学校が休校になったことで、1日の食事を給食に頼っている子どもがいて、「子どもの食の貧困」が顕在化したことが契機となった。

・日本人はあまり見た目の差はないからこそ、みんな同じでないといけなという「同調圧力」が強い。他人と違うことを言ったりしにくい。その中で、小さな差をことさら大きく感じるというか、例えば正規社員と非正規社員では、仲間に入れられないというようなこともある。生活保護の話では、保護費をもらっている人もいるが、もらうことに対する引け目により、もらう側のグループに入りたくないという人もいる。

見えない差別をどう取り除くか、というのも人権の大きな課題だと思う。新宿の都庁周辺(ホームレスの方の段ボールが多くあったエリア)に、道端に座っている人が沢山いるのを見かけ、彼らの人権はどう考えたらよいのだろうかと思った。段ボールを全て撤去すれば、彼らは「いない」ことになるが、それで良いとは思えない。人権と言っても、いろいろなものがあるので難しい。

→市の各課と人権基本条例(仮称)について話し合っているが、「人権侵害」の実状というのはやはり理解しづらい。想像力が働かず、抽象的な議論になりがちである。できれば、今回のように具体的などころから出た課題について、次回以降議論を進めていきたい。見えていないものにどう気づくのか、それが人権問題で配慮すべき点であると気づけた。

・人権と責任は同時に存在し、どちらも非常に大切である。例えば、選挙での投票に関心を持っている。

→人権基本条例でも、市・市民・事業者の責務・役割を盛り込みたいと考えている。

3 第12期提言について(資料4、5をもとに説明)

→円卓会議は、1期あたり2年。期ごとに、意見交換した内容を取りまとめ、提言を市長に提出している。

今年度は第12期の2年目になり、令和5(2023)年3月31日付けで提言を作成する。提言(案)や次期(第13期)に話し合うテーマについて、意見はあるか。

・(座長) 交流の項目に、国際交流フェスティバルや日本語教室、イングリッシュラウンジが載っているが、これらの方向性の検討を13期のテーマにできるのではないか。

→これらは、三鷹国際交流協会(MISHOP)で長年行われており、利用者の方にも受け入れられている。多文化共生センター(仮称)は、MISHOPの事業を発展的に繋いでいく施設となる方向性なので、テーマ候補になりうる。一方で、MISHOPはボランティアベースでやっているため、発信の仕方を慎重にすべきである。MISHOPの活動を知ったうえで、どうするかという提言だったらできると思うので、MISHOPの事務局長ともやり方を含めて調整が必要。

・(座長) 第12期において、ワークショップでの話し合いが非常に良かった。市の考えを提示してもらい、どう思うかと聞かれれば意見を出せるが、私たち(円卓会議)の方からこうしなさい、と提言を出すのは難しい。

→補足説明だが、多文化共生センター(仮称)の要素は3つ。「多文化共生(国際化)」、「人権(男女平等、多様な性を含む)」、そしてこれらの土台となる「平和」事業の推進で、これらは関連しあっている。

・(座長) これまで、円卓会議で「平和」について話し合ったことがない。市では、平和についていろいろな事業に取り組んでいるが、その大切さについて理解をしている人は少ない。過去には広島に派遣され、報告会を行った学生もいた。

→我々の係では、平和事業についても担当している。また、ウクライナ避難民の方が32人三鷹市に来ているが、都内でも多い方で、多摩地域で1番多い。市民がウクライナについて学ぶ機会を提供するために、講座などを実施してきたこともあり、理解しやすいテーマかと思う。

・三鷹には、かつて軍事施設・軍事工場があり、戦争に関係深い。ウクライナに関しても、ニュースでの取り上げが少なくなっており、現状がわからない。いいテーマだと思う。

・イエメンもある。

→平和と人権は切ってもきれない。戦争の相手国同志と一緒に暮らしていることに注意し、お互いに理解しながら平和について考えていく必要がある。

・(座長) 日本人の中では、差別があまりわからないという話があったので、それをテーマにするのも良いと思う。

・子どもの貧困などは、本当に見えてこない。服装は同じに見えるが、背景の家庭は異なることがある。また、お年寄りでも介護保険を使わない(使えない)こともある。ひとりで住んでいる孤独なお年寄りが身近な問題だと思う。スーパーのレジがセルフレジになり、唯一の会話も奪われてしまった。

他に、失業問題などもある。働くために来日したが、仕事がうまくいかなかったり、仕事がなくなったりした場合でもすぐに帰国するのは難しいと思う。そういう方々はどうしているのだろうか、と思う。なにかできることはあるのか、彼らを「見える」ようにしないといけない、と思う。

→貧困から孤立につながる。これは円卓会議のテーマでもあるし、人権基本条例(仮称)にとっても、非常に重要な視点である。

・円卓会議は、外国籍の方を中心に、外国籍の方が市内で暮らしやすくするにどうしたらよいかと考える会議だが、外国人住民もだんだん特別な存在ではなくなってきた。この会議だけでなく、色々な人と話をしていきたい。

→昨今は、「国際化」ではなく、「多文化共生」と言うようになってきた。また女性だけではなく、多様な性も含めるようになったように、時代が変わってきて、それぞれがシームレスに関連している。多文化共生も人権についても、全てが関連していると思う。

4 その他

本日いただいた意見を反映させた提言(案)を作成し、でき次第メールで送付するので、確認をお願いしたい(欠席委員は特に)。

次回開催は3月中を予定しており、ここで提言(案)を確定させたい。日程は決まり次第お知らせする。

以上